



特集 みんな、家族。

保健センター ☎ 33-8000

人も動物も、長く幸せに暮らすためにできること

9月20日から26日は、動物愛護週間。動物愛護週間は、生命ある動物の愛護と適正な飼育について、皆さんに関心と理解を深めてもらうために「動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）」に基づいて設けられています。この機会に、飼っている動物や身近な動物について、もう一度考えてみましょう。

犬を飼っている人へ

●犬を飼うときは

生後90日を経過した犬は、狂犬病予防法により、生涯に1回の登録と毎年狂犬病の予防注射を受けなければなりません。登録鑑札と注射済票は、必ず犬の首輪につけましょう。ただし、犬がマイクロチップを着し、かつ環境省データベース「犬と猫のマイクロチップ情報登録」で所有者情報を登録、または変更登録をした場合、田原本町では登録の必要はありません。

登録や注射を受けていない犬の飼い主は、法律により処罰されます。



●散歩のときは必ずマナーを守って

散歩時の犬のふんが道路上に放置され迷惑しているという相談が多く寄せられています。ふんの処理は飼い主の責任です。排せつは自宅で済ませるようにしましょう。

また、散歩時はふんを入れる袋や水を携行し、飼い主が責任を持って必ず持ち帰ってください。

事故防止のため、必ずリードを着し、犬を制御できる人が散歩をさせましょう。



猫を飼っている人へ

●飼い猫は屋内で飼育を

屋外では交通事故や感染症などの危険があります。外の暮らしは過酷なので長生きできず、平均寿命は4〜5年と短くなります。屋内飼育の飼い猫の寿命は15〜20年ですので、屋内で飼いましょう。

●飼い猫には身元表示を

迷い猫を防ぐため、飼い主・住所などが分かるよう、飼い猫には首輪と名札などをつけましょう。

●繁殖を望まない場合は必ず不妊・去勢手術を

猫は、生後1年足らずのうちに繁殖能力が備わります。年に2〜4回、1回当たり3〜5匹程度の子猫を産みます。不妊・去勢手術は、尿のおいが弱まり、さかりの鳴き声がなくなる効果も期待されます。

●飼い主のいない猫について

おなかをすかせた猫に餌をあげようとするとその気持ちは、悪いことではありません。

しかし、餌を与えるだけでは、猫はどんどん増えます。また、ところかまわず排せつし、近所や周りに迷惑をかけ、結果的に嫌われてしまいます。無責任な餌やりはやめましょう。

飼育ルールやマナーを守りましょう

犬や猫などの動物は、人に安らぎを与えてくれる大切なパートナーです。一方で町には、犬や猫に関する苦情や相談が多く寄せられています。犬や猫と暮らすためには、いくつかのルールやマナーがあります。近隣には、犬や猫が苦手な人、アレルギーを持っている人などが住んでいる場合もあります。他人に迷惑をかけるないように配慮しましょう。マナーを理解し守ることで、人と動物がともに安全で快適に暮らせる町を目指しましょう。

動物は愛情と責任をもって最後まで飼いましょ

ペットを家族に迎えることは、ひとつの命を預かることです。愛情と責任を持ってその動物が命を終えるまで飼いましょ。



INTERVIEW

人と猫が一緒に住める地域に

町内で野良猫の保護活動を続けておられる今泉律子さんにお話を伺いました。

野良猫の保護のため「さくらねこTNR」という活動を続けています。これは、野良猫を捕獲（TRAP）し、不妊手術を（NEUTER）し、元の場所に戻す（RETURN）もので、野良猫の繁殖を防止し苦情や殺処分を減少を目指す活動です。

不妊手術を済ませた猫は耳の先がカット（さくら耳）されていることから、さくらねこと呼ばれています。

野良猫保護の取り組み

私は猫が好きで、もともと野良猫の不妊手術や子猫の里親探し、保護シェルターでのボランティア活動を行っていました。活動を続けていく中で、町内に野良猫が多いことがわかり、田原本で保護活動を行うようになりました。

（公財）どうぶつ基金の制度として「さくらねこTNR」を進める行政を助けるものがあります。田原本町でも協働してほしいとお願いしたところ、協力してくださることとなり、無料で手術を受けさせられるようになつて助かっています。

猫の捕獲は難しく、捕獲器を仕掛けて捕まるのを待つのですが、非常

に時間がかかり夕方から朝までかかることもあります。町内で1年間におよそ100匹前後の野良猫を捕獲していますが、まだまだ野良猫の数は減少していません。

保護活動が根付いてほしい

優しさなどから野良猫にエサをあげてしまう人もいます。しかし、ただエサをあげるだけでは野良猫は増えていく一方です。餌付けだけでなく、不妊手術をすること、食べ終わった後にはきちんと片付けること、これらを徹底することで地域がきれいになると考えています。

そのためには地域の皆さんの協力が必要です。生活環境の向上と、人と猫と一緒に住める地域にするため「さくらねこTNR」活動を知っていただき、地域での保護活動が根付いていくことを願っています。



今泉 律子 さん